て用べし、俄まきはおり合ぬもの也、いづくも惡シ、うき〳〵と有が吉、餘慶に惡しく薄過たるも惡、松葉飛石ぎわなど、都而横計にならぬやう、立にも横にも去どけなくはき寄たる樣に、さすがきわを立たるが吉、石爪のきわ、一方は石壇際へまき付、一方は四五寸程間を除けて吉、松葉のうへに、爰かしこに松かさ、又は落葉など散し置もよし、總別松の木なき所は、松葉敷かぬもの也、其代に落葉など敷も吉、青葉は惡し、

〔茶式花月集二〕一路次仕樣之事

一松葉ヲ敷事、植込ノ内見合、所々敷也、

右之通口切ニ敷、正月元日ヨリ少々ヅヽ松葉ヲ揚ル、此仕ヤウハ、大晦日ニ數奇屋ノ方ヲ揚、（但シハ是アラタメテ春チムカヘル心）又正月末、或ハ二月ヘ入テ、其次ヲ見合揚ル、扨風爐ニ替リタル時、待合不殘揚ルナリ、

（但シ風爐ニ揚ル時モ、待合計ニ松葉アリ、風爐ヨリ不殘取ル、附利休大晦日ニ年暮ノ禮ニ紹鷗ヘ御出被成候節、紹鷗路次ニテカレ薄テカリ被居候由、此時直ニ茶ノ湯アリ、花ビラ餅ニ味噌卷牛房ノ葉子ニテ有之由、夫ヨリ利休モ薄チカリ、大晦日ニ松葉モ少々揚候由、是ハ改テ春チ迎ルナリ、）

〔槐記〕享保十四年十一月廿日、參候、世間ニ何ゴトニモセヨ、スルホドノコトヲ利休々々トイヘドモ、利休ヨリ後ニ出來タルコトモ多シ、（左馬頭ノ庭ニ、松葉ナシカレタルヲ御覽（近衛家熙）アリテ、）庭ニ敷松葉シタルコトハ、織部（古田織部正）ヨリ始レリト云、客ヲ口切ニヨビタルニ、朝ノ寒氣甚シキニ、土地コホリテ霜柱ノタチタルヲ見苦トテ、松葉ヲシキタルト云、尤ナルコトナリ、

〔梵舜日記〕慶長廿年七月三日丁丑、金子八郎兵衛ヨリ申來、二條御城數奇屋路地ニ敷松落葉、卅俵持遣也、

〔南方錄二〕露地水打樣の事

茶會の日、其刻限を考て、露地内外腰掛等悉水打べし、飛石に水たまらぬ樣にすべし、就中腰掛の